

4. 政宗公とお酒

伊達政宗公はお酒好き？ お酒にまつわる話は数多い

◎仙台藩酒造の発祥

慶長13年（1608年）柳生宗矩の紹介

で大和国榎森の又五郎（又右衛門）

を杜氏として召し抱え、城内に造酒

屋敷を与える

明治維新まで「御城内定詰御酒御用」

として榎森家は酒造業に従事

多種類の酒を製造

★多種類の酒を醸造

みぞれ酒、忍冬酒、梅酒、桑酒、菊酒、豆淋酒、焼酎本なをし

泡盛酒、しそ酒、ぶどう酒、覆盆子酒、当座玉子酒、印籠酒など

その他にも一門や大身家臣の居地にはお抱えの酒造があった

◎酔余口号（政宗公の漢詩、題意「酔ったあまりの口ずさみ」）

馬上少年過

四十年前少壮時

世平白髪多

功名聊復自私期

残軀天所赦

老来不識干戈事

不樂是如何

只把春風桃李卮



仙台藩御用酒発祥の碑より



寛文4年（1664年）仙台北下絵図より「御酒屋又右衛門」の表記

【No.04】

2021年5月12日

支倉ないと
ONLINE

◎政宗公のお酒失敗？談

★脇差事件：元和5年9月頃（1619年）小姓頭蟻坂善兵衛の頭を酔って脇差のさやで叩いた事件

★飲み過ぎすっぽかし事件：寛永3年（1626年）將軍秀忠との茶の湯の約束の前夜、公家たちと痛飲し、虫気と称して茶の湯を延期させた上、翌朝川遊びに出かけた事件

→その後、將軍から瓜が届いた

★前関白の烏帽子ねじまわし事件：寛永11年閏7月18日

（1634年）前関白近衛信尋から能に誘われ、

能を見ながら飲みすぎて、

「公家ほどぬるきものはなき」と言って

信尋の烏帽子をねじまわした事件



伊達政宗像 狩野安信筆
仙台市博物館蔵

◎その他のエピソード

・むう姫宛の手紙には「さけのみ申候て」「事のほか酔候て」などが時折書かれている

・「陸奥守鷹野之掟」という洒落っ気ある掟を出している